

# 続・ふるさと

## くちばし話

### 鹿沼と那珂湊の流通を支えた祖母井

第10回

祖母井の有力商人油屋(町田)久右衛門が幕末期鹿沼宿の油屋源兵衛と取り引きをしている。

久右衛門は、源兵衛に金六九四両ほどの荏粕(荏胡麻の実から油を絞ったかす)・魚肥(干鰯や油を絞った鰯のかすなど)を売り、源兵衛から現金と麻を受け取っている。

油屋源兵衛は、鹿沼宿



油屋久右衛門と油屋源兵衛の取引を伝える古文書



江戸時代の絵図に描かれた那珂湊のようす

きつての麻商人である。江戸時代後期、鹿沼地方では、麻が特産品となった。鹿沼麻は、おもに漁具や船具の原料として、九十九里浜や鹿島灘の海村へ販売されていた。

反対に鹿沼地方は、麻の肥料となる魚肥を太平洋沿岸から大量に購入した。鹿沼地方と太平洋岸は、たがいの産物がたが

いの必需品となるという需給関係で強くむすばれていた。

祖母井は、那珂湊方面から魚肥を集荷し、芳賀郡の村むらへ販売する流通拠点であった。

油屋久右衛門は、源兵衛から受け取った漁粕代金を那珂湊の魚肥問屋梅屋権十に送っている。久右衛門を介して、油屋源兵衛と梅屋権十の取り引きが生まれたのである。久右衛門が買った麻も、漁具・船具の需要のある那珂湊に販売された可能性が高い。

祖母井は、下野国西部と常陸国海岸部を横断する流通の要衝として重要な位置にあったのである。

### 編集後記

□「明けましておめでとうございませう。お正月はいかがお過ごしでしょうか。今年「広報はが」のほかに、2つの「特集号」を発行しました。□1月発行は、締め切り日が通常より早く、気ぜわしいのですが、担当職員が日々原稿と格闘し、これらを発行することができました。内容はいかがでしょうか? □今年も皆さんのニーズに答えられる広報紙づくりに取り組みたいと考えていますので、ぜひ皆さんの声をお寄せください。お待ちしております。(K)



Anas crecca (全長37.5cm)



カモ類の中で国内で観察される一番に小さなカモである。とても臆病でヨシの枯れ草の間を泳ぎまわり、人間が近づくと素早い羽ばたきで、ビューンと金属音を立てて一直線に飛び立つ。

雄は頭部が栗色で目の周りは緑色。緑のサングラスをかけているようにみえる。体全体は灰白色で、上部から翼にかけて黒褐色の縞模様がある。お尻に三角形の黄色い部分があり、黒い線がはっきりと現れる。くちばしと脚は黒色である。雌は体全体が褐色で黒褐色の斑模様がある。

カモ類は雌雄が異なった体の色彩だが、くちばしの色は同じなので、他のカモと雌の識別はくちばしに依ることが多い。

■編集 芳賀町広報聴取委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>  
■苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

